

# 岡山県南部における弥生時代後期の形象遺物群

光本 順

弥生時代後期の岡山県南部では、立体的な形象遺物が特に足守川西岸の中核域において、弥生墳丘墓を中心としながら集中する現象が認められる。楯築墳丘墓（弧帯石、人、家）や女男岩遺跡（家）、鯉喰神社墳丘墓（弧帯石）、雲山鳥打墳丘墓群（家、鳥）、甫崎天神山遺跡（鳥）、矢部（龍）での出土がみられる。本発表では、形象遺物群に関する三次元計測を用いた資料化の一部および今後の展望について示す。

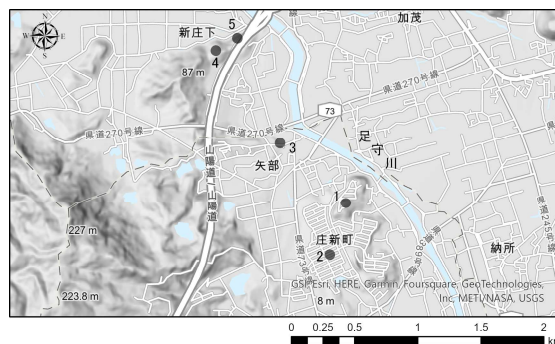


図1 足守川西岸の形象遺物出土遺跡

1. 楯築、2. 女男岩、3 鯉喰神社、4. 雲山鳥打、5. 甫崎天神山。他、矢部から表採。

## 岡山市雲山鳥打墳丘墓群

### 遺跡の概要

岡山市雲山鳥打墳丘墓群は、弥生時代後期後半の倉敷市楯築墳丘墓のある丘陵と古墳時代中期の巨大前方後円墳である岡山市造山古墳の間の丘陵上に位置し、吉備の中核的立地といえる。3基からなる同墳丘墓群は、1983～1985年にかけて岡山大学考古学研究室による発掘がなされた。多量の特殊器台等の土器類他の出土が知られるものの、正式報告の刊行には至っていない。一方、雲山鳥打出土資料の中には、本研究においても鍵となる形象遺物が存在する。内部資料的性格の概報ではあるが、『岡山市雲山鳥打弥生墳丘墓群の調査成果』（岡山大学文学部考古学研究室、1986年）には、1号墳丘墓（長方形、20×15m）から鳥形土器6個体、そして家形土器2個体が出土したとされる。本研究では、未報告資料の公開の一部として岡山大学が保管する雲山鳥打の形象遺物について、SfMによる三次元計測と非破壊のハンドヘルド蛍光X線装置をもとに基礎的整理に取り組んでいる。

### 鳥形土器



図2 雲山鳥打1号墳丘墓出土鳥形土器

上: オルソ画像 下: 斜め上方から。Agisoft Metashape Professional 使用。頭部にあたる口縁破片はデジタル接合。

### 家形土器

家の壁面、屋根・頂部、床部分の破片が保管されている。床の破片が2個体分あるとともに、異なる胎土・色調の破片群を家形土器とみなせば3個体分の資料と思われる。いずれも小型の部類であり、底面部分の形状から高杯状の細い脚部ないし台部が付属するものと考えられるが、該当する下半部を特定していない。鋭利な工具による斜行・格子文が外面に施されるとともに、家壁面には柱ないしそれに直交する区画が粘土紐で表現される（図3）。女男岩例（図4）のように、家部分長側面の壁面に出入口が設けられている可能性がある。



図3 雲山鳥打1号墳丘墓出土家形土器 \*復元案検討中



図4 女男岩遺跡 家形土器（全体高 50.3 cm、倉敷考古館所蔵）

## まとめと展望

岡山県南部では、百間川原尾鳥遺跡で舟形土製品（百間川・後・IV期）が出土しているが、弥生時代後期後半の楯築墳丘墓を中心とする今回の小地域において、墳丘墓を中心に形象遺物の一定の組み合わせが成立していた可能性がある。基調となるのは家形土器であり、それに鳥が加わる雲山鳥打所在の丘陵や、人形や弧帯石が加わる楯築といったバリエーションが存

在するとも理解できる。

家形について、家形土製品が集落遺跡の総社市横寺遺跡で出土しているが、立体的かつ精巧な家形土器が墳丘墓に収められるという、階層構造をなす。また家形土器は、神奈川、静岡、鳥取、熊本などにも認められ、系譜等が課題であるが、墳丘墓に集約されるのが吉備の特色となる。形象遺物を用いた墳墓儀礼が古墳文化へどのように展開するか否かは、現在取り組む研究テーマである。